

LIFE TIMES

三菱化学物流株式会社
<http://www.mclc.co.jp/>



平成25年3月1日(金)発行【隔月(年6回)発行】

発行部署 : ソリューション営業本部ソリューション営業部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4620
発行責任者 : 白土 雄二郎
お問合せ窓口 : 古田 泰幸

第104号

【目次】

1. 第9回 三菱化学(MCC)グループ生産技術ポスターセッション参加報告
2. 貨物自動車に対する保険料及び課税の見直しについて
3. ExcelVBAに替わる開発ツールの検討
4. 最適出荷場所ツールについて
5. 菱化ロジテック社 ~中国支店紹介~
6. AUTOMOTIVE WORLD 2013 参加レポート
7. エコプロダクツ2012 参加レポート



1. 第9回 三菱化学(MCC)グループ生産技術ポスターセッション参加報告

去る1月30日に開催された生産技術ポスターセッションに、当社からは2つのテーマを出展しました。三菱化学社石塚社長及び各役員を含む参加グループの皆様に対して、当社の取り組みについて発表させていただきました。以下、概要をご報告いたします。

1. 日時:2012年1月30日(水) 15:00~17:30 (1分間プレゼン、全29テーマの展示・説明)
2. 当社テーマ

①「KAITEKI物流の実現をめざして」(省エネ・環境カテゴリ)

内容:陸運、海運、国際輸送、各分野での取り組み事例及び物流解析ツールの紹介

②「物流現場における『KAITEKI』化」(安全カテゴリ)

内容:事故防止、環境対策、安全対策、作業効率化、グループ会社との協業(協奏)
各分野での改善事例紹介

3. 結果:

当日の会場内は発表者と来訪者との間で、活発な情報交換が行われました。

当社展示にも、約2時間の説明時間に多くの来訪者にお越しいただき、総合物流企業である当社の包装から輸送までの一貫した取り組みをご理解いただけたと理解し、深く感謝いたします。

多くの方に出会い、ご意見をいただくことができる貴重な機会であり、当社にとっても大変有意義な展示会となりました。



2. 貨物自動車に対する保険料及び課税の見直しについて

金融庁は1月17日の自動車損害賠償責任(自賠責)保険審議会において、平成25年度の自賠責保険料を全車種平均で13.5%引き上げることと決定しました。自家用乗用車(2年契約の総額、沖縄・離島除く)では11.6%の引き上げ、最大積載量が2トンを超える営業用普通貨物自動車及びけん引普通貨物自動車(1年契約の総額、沖縄・離島除く)では0.7%の引き上げとなります。

一方、運送事業者の負担軽減につながる自動車に対する課税見直しについては、平成26年度の税制改正で、以下の抜本的な改正の結論を得るとの方向性は示されましたが、平成25年度の税制改正に具体的な内容は盛り込まれませんでした。

改正の方針

自動車取得税

2段階で引き下げ。消費税10%(平成27年10月)の段階で廃止。消費税8%(平成26年4月)の段階ではエコカー減税の拡充など、グリーン化を強化。

自動車税

消費税10%段階でグリーン化の維持・強化及び安定的な財源確保の観点から見直し。

自動車重量税

エコカー減税制度の恒久化。消費税8%段階では、財源を確保して一層のグリーン化等の観点から、燃費性能などに応じて軽減する等の措置を講じる。

いずれも平成26年度の税制改正に結論は先延ばしされた形で、上記方針についても今後の情勢により流動的ですが、物流業界への影響も大きい内容だけに成り行きが注目されます。

3. ExcelVBAに替わる開発ツールの検討

皆さんはVBA(Visual Basic for Applications)をご存知でしょうか。VBAはMicrosoft社の Office製品で共通して使えるプログラミング言語です。当社は積極的に、ExcelのVBAを使用して、小規模なシステムについては内製しています。お客様からExcel等でいただいた物流オーダーを当社基幹システム(MCLC-EPOCH)にアップロードする仕組みを汎用化したこともあり、そのための前処理(レイアウト変換等)を行うような小規模システムの、導入案件が増加しています。

ExcelVBAで内製するメリット、デメリットは以下の通りです。

<メリット>

- ・導入スピードが速い。(開発者が業務を理解している)
- ・費用対効果が高い。(基本はExcel、外部コストはゼロ)
- ・ユーザー操作性に優れている。(操作する画面はExcel)

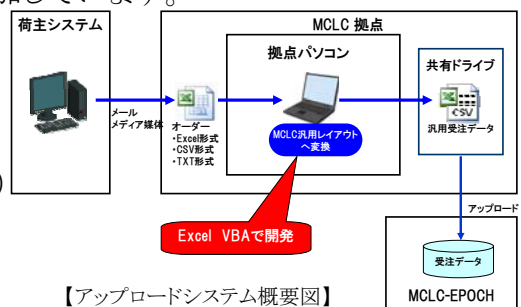
<デメリット>

- ・案件が重なると、開発要員不足になる。
- ・保守は開発者本人でないと、対応が遅くなる。

上記のように、メリットとしては大きい一方で、デメリットにはどうしても開発、保守の要員が問題として挙がってきます。保守が行い易いように詳細なドキュメントを記録するようにしていますが、どのようなプログラムにも、開発者の“癖”が出ます。いくら詳細なドキュメントを残したとしても、その開発者が一番理解していることは間違いありません。そこは、例え外部のシステム会社へ開発依頼したとしても同じです。

そこで、ExcelVBAのメリットをそのままに、さらに、開発がスムーズで、かつ保守も簡単できるツールが無いかというテーマのもと、セミナー等に積極的に参加し、情報を集めています。具体的な名前を挙げる段階ではありませんが、検討に値しそうなものも出てきています。

今後とも、お客様や現場のニーズにフィットするシステムソリューションを行っていくためにも、より良い開発ツールやシステム保守のあり方について検討を進めて行きます。



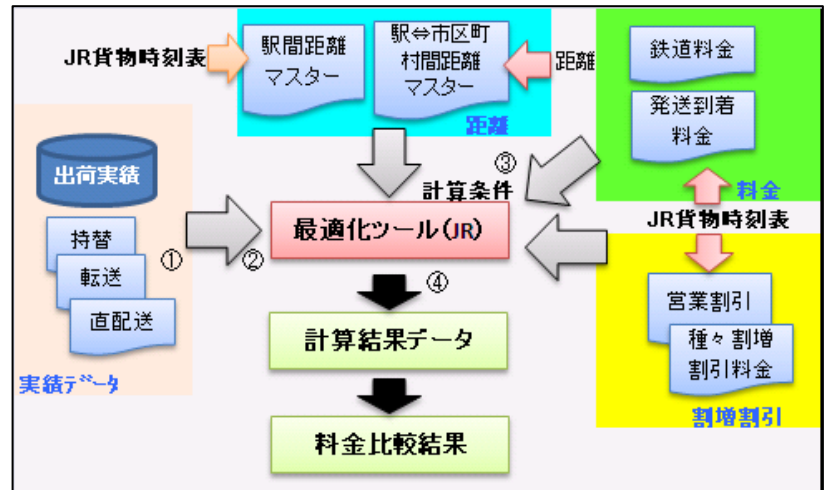
4. 最適出荷場所ツールについて

過去にも掲載しました当部の「最適出荷場所ツール」について、今回は、『JRコンテナ版』をご紹介します。

この検討ツールは、輸送モードとしてJRを利用した場合の、最適出荷場所(発駅/着駅)を料金シミュレーションにより選定します。即ち、製造場所から顧客までの輸配送において、マスターに登録した製造場所/発駅/着駅の組み合わせのバリエーション、つまり(陸上輸送(集荷)ーオンレール輸送ー陸上輸送(配達))で試算し、最安価のパターンを選定するものです。

この解析ツールは、トラック輸送とのコスト比較も可能となり、最適な輸送モードの選定にも役立つと考えております。

このシミュレーション数値結果で効率性を客観的に評価することにより、より一層、荷主のニーズに合った輸送モードと最適出荷場所の選択が可能になります。モダリティシフトが進みます。ますます進む昨今、このツールが活用できる場面が増える事を期待しています。



5. 菱化ロジテック社 ～中国支店紹介～

菱化ロジテック中国支店は、三菱化学物流の水島配送センター内に支店事務所を置き、輸送部門ではローリー輸送の輸送1グループ、トラック輸送の輸送2グループ、生産物流等の倉庫グループの総勢114名で、MCHCグループ各社を主とした各荷主様からお預かりした、大切な製品の物流業務を行なっています。

輸送2グループは、車両15台を保有し、自動車関連部品の長距離輸送、樹脂輸送等を行なっています。

また倉庫グループは、水島物流センター等(倉庫延べ面積約4,000坪)では樹脂及び危険品の保管や入出庫業務を行い、三菱化学水島事業所場内では、樹脂製品充填、出荷業務、場内の原材料、フレコン等の配送業務並びに自動車関連部品の受入れ、仕分け業務を行っています。

中国支店全員が安全で確実な物流を目指し、「慌てず、ゆっくり、確実に」をモットーに安全安心物流サービスの提供に日々努力しています。「ご安全に！」



【輸送1グループ事務所】



【支店事務所】



【倉庫グループ(物流センター)】

6. AUTOMOTIVE WORLD 2013 参加レポート

2013年1月16日～18日までの3日間、東京国際展示場(ビックサイト)で開催された「AUTO MOTIVE WORLD 2013」に参加してきました。

この展示会はアジア最大級のクルマの次世代技術総合展で、

- ①カーエレクトロニクスに関する部品・材料、ソフトウェア、テスト技術、製造装置が一堂に出展する「カーエレクトロニクス技術展」
 - ②電気自動車・ハイブリッド車向けのモータ・インバータ・二次電池の技術に関する「EV・HEV 駆動システム技術展」
 - ③クルマの軽量化に貢献する部品・加工技術、設計技術に関する「クルマの軽量化技術展」
 - ④クルマのITソリューション、車載情報通信機器、システムに関する「クルマのITソリューション展」
- の4つの展示会から構成されていました。

今回は363社が出展、3日間の来場者数は約20,000人と大盛況でした。

各ブースでは、新商品・最新技術の紹介などのデモンストレーションが行われており、「走行支援システム」、「居眠り運転防止システム」など運転手の支援、管理する技術がとても印象的でした。

また専門技術セミナーも併催されており、自動車技術者の方々が熱心に受講されていました。2014年も開催されますので、興味の有る方は、参加されては如何でしょうか。

7. エコプロダクツ2012 参加レポート

2012年12月13日～15日までの3日間、東京国際展示場(ビックサイト)で開催された日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2012」に参加してきました。

約700団体以上の出展があり、3日間合計178,501人の来場者があり、とても大盛況でした。

今回で14回目をむかえるエコプロダクツ展は消費財や産業資材、エネルギー、金融、各種サービスまで、あらゆる分野のエコプロダクツやサービスが出展されており、低炭素社会を目指すため、これまでの常識を転換する新しい環境技術・サービス、企業間連携や地域連携など、環境問題の解決につながる新しいビジネスモデルが紹介されていました。

今回は「The Greener, The Smarter — えらぼう未来を」をテーマに掲げ、新しい未来のために必要なものを選択し、実際に生活や社会に取り入れて行動してほしいとの願いを込め、この展示会ではその選択に必要な最新の環境情報を発信する場として位置付けてられました。

また、子ども向け学習資料を提供したり、製品開発について解説するなど、積極的に小中学生の学習に協力しており、主催者による無料送迎バスを支援するなど様々なサポートが行われていました。

次世代の子供達へ明るい未来を残すため、日本の優れた環境・エネルギー技術・ノウハウが地球規模での環境負荷の低減に貢献することを期待しています。



ソリューション営業部 浅野 智昭

3月になりました。もう、暖かい春はすぐそこです。ゴルフ好きには、待ちに待った季節でしょう！！
私は、あまり上手ではありませんが、きれいな芝生の緑絨毯には心が癒されます。

地球温暖化の影響なのか最近では、「爆弾低気圧」「竜巻」「大雪」と異常気象が続きました。

私自身は、九州から上京してまだ3年目ですが、1年目の夏は猛暑となり「東京ってものすごく暑い場所なんだ！」と勝手に思っていました。どうも私だけでなく皆さん暑かったようですね……

お隣で急速な経済成長を続けている中国では、大気汚染が深刻な問題となっており、日本にも少なからず影響を及ぼしているようです。なにが起こるか分からない世の中になっています。

日頃から万が一に備え、いつもと違うと感じたら落ち着いて行動したいものです。